

# 弘前大学学報



平成22年度学位記伝達式

第 84 号  
平成23年 3月号

**学内ニュース**

○平成22年度学位記伝達式式辞	弘前大学長 遠藤正彦	
人文学部・人文社会科学研究科	-----	1
教育学部・教育学研究科	-----	3
医学部医学科	-----	5
医学研究科	-----	7
医学部保健学科・保健学研究科	-----	9
理工学部・理工学研究科	-----	11
農学生命科学部・農学生命科学研究科	-----	13
地域社会研究科	-----	15
○平成22年度学位記伝達式を举行	-----	16
○弘前大学永年勤続者表彰～永年の功績を称える～	-----	17
○弘前大学人文学部とロシア連邦サハリン大学考古学・民族誌研究所 ならびにサハリン州立郷土誌博物館が研究協力協定を締結	-----	19
○弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾 平成22年度アドバンストコース修了証及び認定証授与式を举行	-----	20

<b>諸会議</b>	-----	21
------------	-------	----

**人 事**

○人事異動	-----	24
-------	-------	----

<b>主要日誌</b>	-----	27
-------------	-------	----

<b>学内規則等の制定等</b>	-----	28
------------------	-------	----

式 辞

弘前大学長 遠 藤 正 彦

人文学部中庭の旧制弘前高等学校名残の桜も芽が膨らんで、春の到来を告げています。この春の到来に合わせて、例年ならば学位記授与式を挙げる所ですが、申すまでもなく、この度の東北関東大震災及び福島原子力発電所事故により多くの被災者がおり、一方本学では安否の確認のできない皆さんの仲間がおりますので、本学は学位記伝達式として挙行しております。その仲間と共に只今皆さんに、学部卒業生に学位記及び大学院人文社会科学研究科修士に修士の学位記をお渡ししました。本学は皆さんを自信を持って社会に送り出します。



皆さん、学位記取得、誠におめでとうございます。これから社会に出て、または更なる大学院へ進んで、大いに力を発揮してほしいと願います。

ところで、卒業生の皆さんは、本学在学中の4年間、教養・専門の勉学、課外活動、そして就職活動にそのエネルギーを費やして努力してきました。一部の方は、世界的経済不況を反映して、就職先の決定されていない方もおられるでしょうが、これからも努力して目標を達成してほしいと願います。

皆さんは、こうして充実した大学生活を過ごされたと思います。特に皆さんは、一昨年の弘前大学創立 60 周年記念事業における学生参加事業の中で、それぞれの力を発揮し、また昨年の第 10 回という記念すべき弘前大学総合文化祭では、主役の一人として活躍し、それぞれ大学生活に満足感を持たれたと思います。これが、これから巣立っていく皆さんの誇りであり、自信の拠り所となるものであります。

今日は、本学の創立期から発展に力を尽くされたおひとりの先達を御紹介いたします。これからの活躍の参考にしてほしいと願います。その方は、相澤文蔵先生といい、本学の創立期から文理学部、人文学部で教育・研究に携わった方です。

相澤文蔵先生は、明治 45 年 6 月弘前市でお生まれになり、旧制青森県立弘前中学校、旧制弘前高等学校を卒業後、昭和 10 年東京帝国大学文学部西洋史学科を卒業されました。一時、私立の中学で教鞭を取られました。当時の国民徴兵制から兵隊に入隊し、一時帰国しましたが、兵士として中国で勤務し、昭和 20 年 8 月終戦により中国で兵役を解かれ復員しました。

---

その後、中学校教官を経て、昭和 23 年本学の前身校の一つ弘前医科大学講師、昭和 25 年新制弘前大学文理学部講師、昭和 29 年同助教授、昭和 41 年人文学部教授、昭和 42 年評議員、昭和 51 年附属図書館長、そして昭和 53 年 4 月 1 日定年により退職されました。そして先生は本学を退官後、平成 2 年まで、弘前市内の弘前学院大学の非常勤講師を務めておられます。

先生は、東京帝国大学時代から、ユダヤ民族史と原始キリスト教史の研究を続けておりました。先生は、本学でその専門性を生かして非常に大きな仕事をされました。それは、「津軽の近代化とキリスト教」というもので、これが私達の住む弘前市や我弘前大学にとって、極めて重要な研究となりました。

話は前後しますが、この津軽の地・弘前は江戸末期、日米修好通商条約により箱館が開港されて間もなく、外国人宣教師がこの弘前にも入り布教活動が開始されています。現在でも尚、古い教会がこの弘前市に現存するのはこの理由ですが、明治 9 年弘前教会が設立され、この流れとして名大工の棟梁・堀江佐吉により建築され、明治の建物として市内元寺町に残っているのが弘前教会であります。この弘前の地は、東北地方でも群を抜いて西洋化された街でした。

そして、明治時代に既にこの地にキリスト教系の学校が 2 校もあり、ここから有能な人材が輩出されました。先生は、明治以降、この津軽地方がキリスト教により近代化されていった経緯を詳細に研究されました。先生はこの研究成果を地元新聞・陸奥新報に昭和 60 年から約 2 年 111 回にわたって連載しました。

この内容を「津軽を拓いた人々」という書名に編集されたのが、本学教育学部卒業生で、現在の学校法人弘前学院理事長の阿保邦弘先生です。相澤先生は、この他に津軽の地方史としての「弘前市史」「弘前教育史」等をまとめられています。これも弘前の歴史書として極めて重要なものです。相澤先生は自分の専門を貫き生涯研究を続けられたということに、私達は多くのことを学ぶことができます。

本学の人文学部は、旧制弘前高等学校からの伝統を受け継いで、いわゆる幅広い文学を一つの柱として教育・研究している数少ない国立の人文系学部の一つです。

皆さんは、この誇るべき人文学部及び大学院人文社会科学研究科で、高等教育を受けたことを誇りとして考えてみると、どのような立場や職業にあらうとも、相澤先生のように生涯専門性に根ざしたライフワークを持つことが、人生としてきわめて大事なことと気付かれたと思います。

皆さんには、この弘前大学で身に付けた教養、専門、人間性等を己の柱とし、学生生活の課外活動等を自信の拠り所とし、本学の現状、そして本学の歴史、そして先人・先輩の歩みを誇りとし、それぞれの道を進んでほしいと願います。

今、我国は未曾有の災害にあつて、この復旧のため若い英知とエネルギーが求められています。我国のこの危機から脱却するためにもぜひ力を尽して下さい。

皆さんがそれぞれの場で本学の誇りを背景に、大いに活躍するようエールを送り、式辞といたします。

---

式 辞

弘前大学長 遠 藤 正 彦

キャンパスの桜の木の剪定が始まりました。春の到来です。本来なら、この春を迎えて、学位記授与式の行われるところですが、御承知のように、3月11日の東北関東大震災とそれに続く福島原子力発電所の事故とにより、多くの人命が奪われ、家族や家を失い、また不自由な生活を強いられている多くの方々がおられます。本学でも安否の確認されない学生が今尚多数おりますことから、学位記伝達式に切りかえて、皆さんに学位記をお渡ししました。ここには、本日出席できなかった皆さんの仲間も出席しているものとしております。



皆さん、学位記取得、誠におめでとございます。皆さんの勉学の努力の結果が評価されたもので、皆さんの努力に心から敬意を表します。

しかし、この中には世界的不況のための経済の停滞から、就職がまだ決まっていない方もおりますでしょうが、自分の目標を達成するまで努力して下さい。応援しています。

さて、皆さんの学んだ教育学部の前身は、明治9年設立の青森県師範学校で、今年で創立135年にもなります。この同じ年、“ボーイズ ビー アンビシャス”で有名なクラーク博士の札幌農学校が設立されています。また、お茶の水女子大学の前身・女子師範学校、広島大学の前身・広島高等師範学校も、本学教育学部とはほぼ同じ歴史を持つ大学です。ですから、皆さん方の教育学部は全国トップクラスの歴史を持っています。

5年前の平成18年、教育学部は創立130年の記念式典を実施しました。それを記念して、青森県師範学校の校歌の歌碑が建立されました。それは、教育学部の富士見町側の小公園に建っています。この校歌の作詞者は、あの「荒城の月」で有名な土井晩翠で、作曲者は皆さんの教育学部の前身・青森県師範学校出身の楠美恩三郎という方です。

作曲者・楠美恩三郎についてお話ししましょう。楠美恩三郎は、明治元年、弘前市蔵主町に生まれました。楠美家は津軽藩士の家柄で、代々津軽平家琵琶伝承の家柄です。恩三郎は、東奥義塾から皆さんの教育学部の前身・青森県師範学校弘前分校を卒業後、香川、京都の師範学校を経て、東京音楽学校、現在の東京藝術大学でバイオリンと作曲の教授に就任しました。その後、文部省から平曲、即ち平家琵琶の調査員を命ぜられ、また、文部省小学校唱歌編さん委員として活躍しました。その編さんされた尋常小学校読本唱歌の中には、私達にとって今尚歌われている「春がきた」や「我は海の子」等が含まれており、

---

また尋常小学校唱歌の中には、「桃太郎」「牛若丸」等が含まれております。しかし、自ら作曲もしているのですが、作詞・作曲者の名は明らかにされておりません。こうした中で、楠美恩三郎の母校としての本学部前身・青森県師範学校校歌の作曲が行われています。

明治の末になって、文部省は西洋音楽一辺倒を見直し、我国古来の音楽を大切にしようとして、平曲つまり平家琵琶の保存に取りかかりました。その結果、弘前の楠美家を中心とした平曲が保存されるようになりました。このことにより、弘前に平家琵琶を継承する家系が幾つか存在することになったのです。

こうしたことから、この津軽の地での平家琵琶や津軽三味線等、格調の高い独特な音楽が継承されていることに尊敬の念をいただきます。私には、こうした楠美恩三郎の流れが、現在の教育学部にも流れているように思います。

皆さんの学んだ教育学部の前身・青森県師範学校の歴史に思いを馳せると、皆さんはこの度、この教育学部を卒業、または教育学研究科を修了したことに誇りを感じることでしよう。

今、我国は、未曾有の大震災により大きなダメージを受け、その復興に大きなエネルギーと時間を要することになり、我国の発展の歩みを遅らせるのではないかと懸念されています。

そうならばこそ、本日学位記を取得した皆さんが、本学教育学部卒業者または教育学研究科修了生として、教育学部の伝統と誇りと自信を持って、我国の将来とこの度の大震災復興のリーダーのひとりとして活躍して欲しいと願います。皆さんの活躍を応援し、発展を祈念して、皆さんの門出を祝します。

式 辞

弘前大学長 遠藤正彦



文京町の大学本部正面のケヤキ並木の芽が赤くふくらんできました。例年ですと、これに合わせて学位記授与式が行われるのですが、御承知のように、東北関東大震災とそれに続く福島原子力発電所の事故により、多数の犠牲者が出て、また本学でも今尚安否の確認のできない多数の学生がおりますことから、学位記伝達式を行っていま

す。この学位記伝達式には、学部・研究科は異なっても安否の確認されていない卒業生も参加しているということで、心を通わせて欲しいと願います。

医学部医学科の卒業生の皆さん、学位記取得、誠におめでとうございます。そして、医師国家試験合格の皆さん、重ねておめでとうございます。皆さんは、この医師国家試験合格を目標に大変な努力をしてきました。ですから、この喜びは生涯忘れられないものと思います。これからは、研修医として更に厳しい修練の場が待っていますので、健康に留意の上、大いに臨床医として研修に励んでほしいと願います。

皆さんの中で、一般入学で6年間学んだ方も、3年次編入学で4年間学んだ方も、本学に入学してから医学部のある本町キャンパスは、毎年毎年急速に変わっていったことを目の当たりにしてきたことでしょう。皆さんが入学してから、附属病院外来棟が新築落成しました。そして、基礎校舎の改修、基礎講義棟の改修、臨床研究棟の改修へと進み、医学部及び附属病院の再開発は終わったかに見えました。しかし、その後も我国初めての緊急被ばく医療を担った高度救命救急センターとそのためのヘリポートが完成し、救急患者を運ぶヘリコプターが飛来するようになりました。合わせて、国立大学として初めての被ばく医療総合研究所が設置されました。そして、これも国立大学の附属病院としては初めての病院地下駐車場の完成を目前にしています。

一方、診療の面では、循環器内科、心臓血管外科のコンビにより、県内の心疾患患者の治癒率が大幅に上昇し、多くの患者が救われました。消化器内科と消化器外科のコンビが、生体部肝移植を我国の最高レベルに押し上げています。泌尿器科の前立腺癌の治癒率も腎移植も全国トップクラスです。その他、多くの診療科の特徴ある治療があげられますが、時間の都合上省略します。

医療機器も遠隔治療のダビンチを始め、ペットスキャン、ライナック等々、最先端の医療機器が続々と附属病院に入ってきています。

---

本学の研究については、神経疾患、免疫、循環器等で、この国立大学法人化後の評価ではSSというすばらしい評価を得ています。更に本学では寄附講座が5講座にもなりました。

文京町キャンパスの機器分析センターには、平均的大学が保有する以上の最新鋭の分析機器が並んでいます。被ばく医療総合研究所及び高度救命救急センターには、我国トップクラスの放射能関係の分析機器があります。青森市に設置された我国で初めての自然エネルギーを扱う北日本新エネルギー研究所にも、我国では1・2台というすばらしい機器があり、これが本学の医学研究を支えています。

本学の研究の歴史の中には、現在の臨床医学の中では不可欠のCT-MRIの先賞者であり文化勲章受章者の高橋信次先生、臼淵肉腫・弘前肉腫の開拓者臼淵勇先生等、世界的研究者が多数います。

弘前大学医学部医学科及び大学院医学研究科は、高度救命救急センターや被ばく医療等を中心にして、我国の医療機関のトップクラスにあります。この度の東北関東大震災と福島原子力発電所の事故に際して、トップクラスのしかも大型の医療チームが文部科学省の要請により第3次まで現地に派遣されています。今、第3次隊が福島におもむいて避難者の放射能測定に従事していますし、医師団も派遣され現地で医療活動をしています。

皆さん、皆さんの学んできた弘前大学医学部医学科とそれに一体の大学院医学研究科をどう見えていますか。本学は、単なる中央に医師を送り出す医師養成大学ではありません。本学は現在、医学の教育、研究、診療、地域保健において我国トップクラスの設備とスタッフとクオリティーを持っています。

現在の医師研修制度の根幹は、私が本学医学部長時代に全国国立大学医学部長会議の世話人として実施をまとめたものですが、それが全く歪められた形で実施されました。その結果として、研修医の首都圏への偏在、地方の医師過疎化等が進んでおります。しかも、首都圏では若い研修修了者の中で、定まった診療の場、研究の場が得られていない方が多数おり、今後も増加するだろうと伝えられています。

皆さんには、現在のこの研修医制度を直視し、そして自分の医師としての将来を考えていただきたいと思います。研修医終了後、大都会の中にうずもれるのではなく、母校弘前大学にもどれば臨床医としても研究者としても十分に己の力を発揮できる場が用意されています。それは、先程お話した弘前大学医学部医学科と大学院医学研究科が、我国トップレベルのスタッフと、トップレベルの教育・研究の設備を揃えて用意しているからです。

それには、今から研修終了後母校にもどると心に決めて、これからの研修に臨んでほしいと思います。弘前大学は母校にもどる皆さんを心から歓迎します。

その皆さんと共に、弘前大学医学部医学科と大学院医学研究科は、トップレベルの診療とトップレベルの研究を世界に発信しましょう。

しかし、明日からはまず研修医として存分に力を発揮して下さい。皆さんの活躍を弘前から応援しています。

弘前大学大学院医学研究科の教授以下教職員すべてが、その皆さんにエールを送っています。

---

式 辞

弘前大学長 遠藤正彦

医学部小公園の木々の芽が赤くふくらんできました。春の卒業シーズンの到来です。皆さんも、待ちに待った学位記授与式を迎えるはずでしたが、御承知の東北関東大震災と福島原子力発電所の事故により多くの被災者がおり、また安否の確認のできない本学学生が多数おりますことから、これに代えて、本日学位記伝達式を行っております。



皆さん、学位記取得誠におめでとうございます。皆さんには、国立大学法人化後、医師不足という繁忙な臨床の中で、また臨床医学系論文発表の低下が指摘されるという重圧の中で、それぞれの研究に大変御苦労されたことと思います。その結果として、研究成果を論文としてまとめられ、学位審査に合格した皆さんに、心からの敬意を表します。これからは、これまで培ってこられた研究力を、更なる研究や臨床活動の中に生かして欲しいと願います。

ところで今、本学の輝かしい研究の歴史の一頁を顕彰するための顕彰碑が、皆さんの学位記授与式に間に合わせるよう準備中でしたが、この東北関東大震災のための交通路の分断により、その建物が間に合いませんでした。しかし、近く皆さんは、臨床研究棟西口玄関脇に“生体部分肝移植の実験における世界最長生存犬「ヨーコ」”の銅像が、本学の輝かしい研究の歴史を飾るものの一つとして、お目見得することになっています。

その世界最長生存犬「ヨーコ」のお話をしましょう。「ヨーコ」は犬の名前です。1963年米国の研究グループが脳死全肝移植に成功し、免疫抑制剤の開発により肝移植成績が向上しました。しかし、我国では、脳死肝移植が社会的に理解が得られないので、肝移植は実施されませんでした。

このとき本学の第2外科、現在の消化器外科の佐々木睦男講師、袴田健一助手・現消化器外科教授、その他医師・宮城島堅、伊坂直紀、森達也らの医師団は、肝臓の一部の移植による生体部分肝移植が、我国では倫理的に受け入れられるものと考え、昭和57年、世界に先駆けて大動物・イヌの生体部分肝移植実験を開始しました。

1988年、本学の部分肝移植の大成功を見て、国内は勿論、世界中の医学研究者による、全肝移植によりリスクの少ない部分肝移植実験の、熾烈な競争が展開されました。そして1989年、佐々木睦男講師らによる世界最長生存犬の2例目「ヨーコ」の40日の記録が生

---

---

まれました。

その結果、弘前大学が中心となり、全国組織「生体部分肝移植懇話会」が組織され、本学が手術成績向上の牽引役となりました。そして、内外から多くの研究者が本学に手術手技の研鑽に訪れました。

ところが、1989年、島根医科大学のグループが、本邦初の生体部分肝移植の手術を行いました。残念なことに、その当時本学は、我国最高の手術レベルにありながら、手術適応症例がありませんでした。その後、本学では1994年（平成6年）に第1例目の手術に成功しました。今はこの手術は全国的に実施されていますが、本学は現在まで40例施行し、本学の成功率83%で全国平均は72%、この中で本学の小児例の成功率100%で、全国平均は82%と、本学は全国のトップにあります。

この生体部分肝移植の成功と、それにより多くの患者を救うことになったのは、本学の第2外科グループとその実験に供せられた実験動物犬であり、特に世界最長生存犬「ヨーコ」に負うところがきわめて大きいので、これを顕彰するための銅像が建てられることになりました。これは、本学の誇りの一つです。

皆さんは、医学研究の全てが人命救助につながるものであることを承知しております。本学には、この世界最長生存犬に関わる生体部分肝移植術の研究の他、ノーベル賞の受賞は逃したものの、文化勲章に輝く高橋信次先生の回転横断撮影、臼淵勇先生の臼淵肉腫・弘前肉腫など世界に誇る研究が沢山あります。

皆さんも、この度学位記を取得した以上、独立研究者として、自らのアイデアと自らの努力による研究を重ねて、世界初という研究成果の得られることは間違いないことです。

さあ、皆さん、明日から世界のプライオリティを取る実験にかかりませんか。そこには、人の命を救うという大命題があり、学位記を取得した人の特権であり、使命であると思います。

皆さんの中から、ノーベル賞級の研究成果の出すことを祈念して、式辞とします。

式 辞

弘前大学長 遠 藤 正 彦



保健学研究科の窓から、阿闍羅山・久渡寺等の山々の雪融けの進んでいることがはっきりと見えるようになりました。待ちに待った春の到来です。そして、学位記授与式です。しかし、この3月11日に襲った東北関東大震災とそれに続く福島原子力発電所の事故は、多くの方々の命を奪い、住まいを奪い、生活を奪いました。そして本学にも、いまだに安否の

確認ができない学生もおります。そのため、学位記授与式に代えて学位記伝達式を挙行しています。安否の確認のできない仲間もこの席に臨んでおります。

皆さん、学位記取得おめでとうございます。そして、学部学生の皆さんは、国家試験合格をめざして努力を積み重ねてきました。学部学生の皆さんは、学位記とそれぞれの国家資格を同時に手にできますよう祈念致します。

さて、皆さんの弘前大学医学部保健学科が設置されたのが、平成12年10月、そして学生募集開始が翌年4月で、今年で満10周年を迎えることになりました。その皆さんの保健学科は、看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学及び作業療法学の5専攻、学生入学定員200名という我国最大規模の保健学科の一つです。しかし、本学保健学科設置前後からこれまでの約10年の間、弘前市を中心に青森市から秋田県大館市までの約100キロメートル未満に、医療・保健系大学・学部が6校も設置されたので、この地は全国有数の医療系大学過密地域となりました。なればこそ、我保健学科は他にはない著しい特徴を持たねばなりません。幸い本学保健学科は総合大学の中の一学科・一大学院でありますので、他にはないすばらしい教育環境の中で皆さんは勉学することができたのは誠に幸いです。

そして、本学保健学科は、緊急被ばく医療の教育・研究を柱の一つとして据えました。これは、青森県には原子力産業基地として様々な原子力関連施設があり、また建設途上の施設もあります。このため、事故発生を想定するのではなく、安心・安全のためにこそ緊急被ばく対応の施設と、被ばく医療の教育・研究が必要と考えられました。

そこで、千葉の放射線医学総合研究所との提携により、様々な準備が進められ、保健学科教員による放射線医学総合研究所、アメリカ、そしてフランスで専門的研修を受けて、終に我国初めての被ばく医療の教育が実施されました。そして、附属病院内に、我国とし

---

---

ては初めての緊急被ばく医療を担った高度救命救急センターと被ばく医療総合研究所が設置されました。

皆さんの教育の過程の中には、被ばく医療はまだ少なかったのですが、これから我国唯一の専門的被ばく医療教育が始まります。これまで保健学科を中心に国際シンポジウム、国内シンポジウム等が度々開催され、力をつけてきました。我国にはこのような被ばく医療の教育機関がなかったため、これから本学保健学科の卒業生・修了生は我国の被ばく医療のリーダーとして活躍することになります。

この3月11日の東北関東大震災は、福島原子力発電所の重大な事故を引き起こし、放射能汚染という我国未曾有の放射線事故を起こしました。

文部科学省より、放射能汚染地域外での汚染検査等のための専門家集団の派遣要請がありました。本学は保健学研究科、医学研究科、医学部附属病院、被ばく医療総合研究所からチームを編成し、第1次、第2次隊の派遣を経て第3次隊が今現地で活躍しています。現地からの報告では、本学の派遣チームは、人数も多く、良く訓練されているそのメンバーが手際よく、そしてより専門的に検査業務にたずさわっているとの評価がなされているそうです。

このことにより、本学の保健学科及び保健学研究科は、被ばく医療において大きな特徴を内外に示したことになります。この福島原子力発電所の事故は、原子力発電を見直す機会とはなりましたが、現在我国には多数の原子力発電所が稼働しているのは事実なので、被ばく医療従事者の養成は急務です。

本日、卒業または修了により学位記を取得された皆さんには、本学保健学科が大きく変化して、我国の保健・医療の高等教育の中で確固たる位置を占めるようになったことが理解できたでしょう。皆さんは、その保健学科で学んだことを誇りと自信の拠り所として、社会で大いに力を発揮されるよう願います。また更に大学院へ進む方には、もしそれが本学であるなら、被ばく医療の専門家となり、我国の原子力分野における安心・安全のためのリーダーになって欲しいと願います。

現在のように、保健医療系大学が増え続けますと、近い将来、保健・医療系は人材の大過剰と偏在が起り、熾烈な競争の時代となるでしょう。そんな中であっても、皆さんは、本学の誇りと己の自信を持ってがんばってほしいと願います。そして皆さんは、自分の輝かしい未来を信じて努力するよう願って、皆さんにエールを送ります。

式 辞

弘前大学長 遠藤 正彦



理工学研究科から望める岩木山は、雪融けが進み角がとれておだやかな姿になりました。これを待って、皆さんの鶴首してきた学位記授与式が行われる予定でした。御承知の通り、東北関東大震災と福島原子力発電所事故により、多数の犠牲者と家や家族を失った方も多数おられる他に、本学でも安否の確認できない多数の学生のおりますことから、学位記授与式を中止とし、学位記伝達式としました。

安否の確認のとれない学生諸君も、本日ここで一緒に学位記伝達式に臨んでいると思って下さい。

皆さん、学部卒業生の学位記及び大学院修了者の修士の学位記の取得、誠におめでとうございます。卒業論文や学位論文を作成するための厳しい実験の繰り返しを思い返すと、本日の学位記取得は、誠に充実した気持ちになられたと思います。

本年初め、我国はGDP世界第2位の座を中国に明け渡しました。開発途上国といわれるBRICs諸国、即ちブラジル、ロシア、インド及び中国が、今では莫大な資源と労働力と市場とをもって先進国を追い上げてきております。

この4月1日から実施される我国の第4期科学技術基本計画は、世界的変化として、資源、エネルギー、食などの国際的獲得競争が激化するとしている一方、科学技術と人材こそが資源であるとしています。その人材こそ、正に皆さんではありませんか。第4期科学技術基本計画は、知の資産を生み出す独創性・多様性そのものを、人材としての若い皆さんに求めています。

本学は、この科学技術基本計画にどう対処し、どう人材を育成してきたのでしょうか。本学は、理工学部、農学生命科学部及び医学部の理系3学部によって、理系にシフトしていると言わざるを得ません。本学理系学部は、それぞれ学部の上に大学院博士前期及び後期課程もしくは博士課程をもった、完成度の高い学部であります。

科学技術基本計画のグリーンイノベーションの基本的柱である、エネルギー、環境、食について、本学ではこの基本計画の案が示される10年も前から着々と実績を積んで、エネルギーに対しては我国初の北日本新エネルギー研究所を、環境については白神自然環境研究所を立ち上げて、本学の基盤整備は一段と進んでいました。

しかも、この度の福島原子力発電所の事故を見越していたわけではありませんが、青森

---

---

県が原子力産業基地であることから、安心・安全のために必要と、被ばく医療を担った全国初の高度救命救急センターと被ばく医療総合研究所を立ち上げていました。これらの施設は医学を支える理工学の力が必要であって、これからいよいよ理医工連携が強まります。そして、既に医用システム開発マイスター養成塾が、医理工連携の人材育成を進めています。

そして更に、今本学は東北・北海道地域にはない重粒子線がん治療装置の設置に向けて積極的に運動しています。この装置の稼働には、理工学の中の物理学領域の力が絶対に必要であります。

学部内の研究態勢として、先進医用システム開発センター、液晶材料研究センター、次世代型IT基盤技術開発センターと分子材料化学研究センターが、学部の研究の方向性を鮮明にしています。

また、国立大学法人化前には本学には大型分析機器は少なく、また老朽化していましたが、機器分析センターを立ち上げて少しずつ機器を増やしてきました。その結果、今では平均的国立大学が有する以上の大型機器が、それもコラボ弘大内に専有の部屋を設けて設置しています。更に、青森市に設置された北日本新エネルギー研究所には我国に1・2台しかないという分析機器が、また被ばく医療総合研究所と高度救命救急センターにも放射線関係の機器が多数導入されています。現在、大型分析機器については、かなりのものが揃っていると言えるでしょう。

そして今、理工学部教員が本学の中核的施設の長として本学を牽引しています。稲村隆夫理工学研究科長を先頭に、北日本新エネルギー研究センター担当の学長特別補佐 南條宏肇元理工学部教授、機器分析センター 吉澤篤教授、地域共同研究センター 牧野英司教授、総合情報処理センター 深瀬政秋教授、国際交流センター 倉又秀一教授です。そして、附属図書館の電子ジャーナル化に尽くされたのは清水俊夫教授、南條宏肇元教授、雨森道紘元教授であります。加えれば、理工学部2号館の日本一長いフーコーの振子は、理工学部のシンボルの一つです。

理工学部は、第4期科学技術基本計画を強力に推進する本学の強力な力の一つです。皆さんはここで学び、論文を書きました。振り返ってみれば、すばらしく充実した教官集団と研究環境の中で研究していたとは思いませんか。

皆さんは、理工学部及び理工学研究科で学んだことにより、十分な科学技術の基本とその技術とそして思考法とを身につけたと思います。これから社会に出て、または更なる大学院に進んで、自分の持てるものを大いに発揮して活躍して下さい。

皆さんは今、第4期科学技術基本計画の中で求められる人材であると同時に、この度の我国の東北関東大震災の復興のために期待されている人材です。

さあ、明日から皆さんは求められる人材として、その期待に応えられますように、そして、皆さんの力を十分に発揮して活動されるように、心から応援しています。

式 辞

弘前大学長 遠藤 正彦



本学白神自然環境研究所附属白神自然観察園の積雪も日毎に減り1メートルを切ったと伝えられました、春です。これに合わせて、本来なら学位記授与式が举行される所ですが、申すまでもなく、この度の東北関東大震災及び福島原子力発電所事故で被災された方が極めて多数おられる一方で、本学でも安否の確認のできない仲間が

多数いることから、学位記伝達式に切り換えました。安否の確認のできていない仲間と共に、本日皆様に学位記をお渡ししました。それは、農学生命科学部及び大学院農学生命科学研究科で学び研鑽を積んできたことへの証です。皆さん学位記取得誠におめでとうございます。皆さんは、これから社会に、あるいは更なる大学院へ進み、社会のリーダーのひとりとして大きく発展してほしいと願います。

この4月1日から新しい第4期科学技術基本計画が始まります。その第4期科学技術基本計画の柱は、環境とエネルギーと食です。本学はこの第4期科学技術基本計画を見越していたわけではありませんが、既にこれらは白神自然環境研究所、北日本新エネルギー研究所として対応してきています。そして食は、正に皆さんの学んだ農学生命です。そこで、皆さんの学んだ農学生命科学部と食のりんごは密接な関係にありますので、その農学生命科学部とりんごとの関わりを振り返ってみましょう。

りんごが津軽にもたらされて、津軽でのそのりんごの初生りは、明治10年（1877年）弘前市相良町、今の本学医学部基礎校舎の地にあった山野茂樹という旧津軽藩の屋敷内です。そのりんごは、津軽の気候に合うことから栽培が広がって行き、津軽の一大産業そして、日本一のりんご王国となりました。

しかし、大正時代に入ると、りんごの葉が開花時期から早々と枯れてしまう、いわゆるモリニア病や褐斑病が蔓延し、りんご栽培は壊滅的状態になりました。

この時、大正5年（1916年）東北帝国大学農科大学として札幌にあった現在の北海道大学農学部から、この問題解決のために派遣されて来たのが、大学卒業後間もない若い技師、正に皆さんと同じ年頃の弱冠26才の島善鄰先生でした。この方は、後に皆さんの農学生命科学部の前身・農学部設置に力を尽くすこととなりますが、島先生が津軽一円を11年間自転車でかけまわり、対策を講じ、終にこのモリニア病を克服して、「りんごの父」とあがめられるようになりました。

---

---

この島先生は、その後、北海道大学農学部教授、北海道大学総長を歴任した後、昭和 29 年（1954 年）弘前大学文理学部専任教授として、農学部設置に奔走しました。細かいところを省略しますが、昭和 30 年（1955 年）終に弘前大学農学部の設立となり、そして現在の農学生命科学部に発展してきたのです。非常に興味深いことに、島先生らが当時の文部省に、農学部設置の際の学部の名称を「りんご学部」として申請しました。勿論、認められませんでした。島先生は青森県のりんご産業の中で、本学農学部の役割の重要さを卓見していたのだと思います。

本年秋頃、この島善鄰先生の顕彰の碑を農学生命科学部正門近くに、また、りんご初生りの記念碑を医学部基礎校舎付近に建立の予定であります。

こうして、本学農学部の教育・研究は発展し展開していきましたが、この経緯の中で、昭和 38 年当時の農林省園芸試験場東北支場から本学に、現在の附属生物共生教育研究センター藤崎農場が本学に移管されました。この農場で、昭和 15 年、今世界中で最も生産されているりんご「ふじ」が誕生しています。昨年、その「ふじ」生誕 70 年になりましたので、藤崎農場にりんご「ふじ」の生誕 70 周年の記念碑を建立し、ここを「ふじのふるさと記念広場」としました。

そして、この藤崎農場から塩崎雄之輔名誉教授により新品種“弘大一号”と“こうこう”が生み出されています。この“弘大一号”と“こうこう”は、今この農学生命科学部南側に植樹されています。

農学生命科学部のりんごの研究は、その後、大発展してきました。菊池卓郎名誉教授はりんごの樹形と剪定技術の集大成を行いました。奥野智旦名誉教授はりんご斑点落葉病菌の宿主特異的毒素を発見し、その化学構造を決定しました。原田幸雄名誉教授は先の島先生のモニリア病研究を発展させ、モニリア病菌研究を集大成させました。宮入一夫現教授らは、りんごに寄生するウイルスから世界で初めての酵素 エンド・ポリガラクトシドナーゼを発見しました。時間の都合で省略しますが、その他多くの教員によって、肥料、土壌、貯蔵に関して新しい技術の開発が行われ、現在のりんご産業の中で活用されています。りんごの国際的流通や販売に関しても、農学生命科学部兼任教授で現在の神田健策理事・副学長の業績があります。皆さんの中には、卒業研究や大学院の研究の中で、りんごについて研究に携わった方も多数おいででしょう。

今、地球温暖化の進む中で、この津軽がりんごの適正栽培地ではなくなるのではないかと懸念される声も聞こえます。したがって、これに対応する本学農学生命科学部の役割と使命は、一段と大きくなってきたと思います。この度、学位記を取得された皆さんも、本学農学生命科学部で学んだひとりとして、役割の重さを感じているかも知れません。

こうしてみますと、皆さん方は、本当にすばらしい農学生命科学部で学んだことを実感していると思います。強烈な自信と誇りを感じていると思います。また、第 4 期科学技術基本計画の食の問題と、この度の東北関東大震災の復興は、正に皆さんの力にかかっています。ここで自信と誇りを胸に、明日から激動する社会の中で、または更なる大学院で、力一杯活躍されるよう祈ります。

皆さんの発展を祈念して式辞とします。

---

式 辞

弘前大学長 遠 藤 正 彦

コラボ弘大八甲田ホールから、春霞の中に一杯に広がる八甲田連山が見えるようになりました。春の到来です。この春、学位記授与式が行われるべきところ、この度の東北関東大震災により、多くの人の命が奪われ、また家族を失い、家を失って、不自由な生活を強いられている方が多数おられ、また、福島原子力発電所の事故では、多くの人々が避難を余儀なくされています。本学でも未だに安否の確認できない学生が多数おります。したがって、本学では学位記授与式に代えて学位記伝達式を行っています。

このたび学位記を取得された皆さん、誠におめでとうございます。特に、皆さんの中には、社会人入学者として、勤務しながら学位論文をまとめられた方もおられるでしょう。それらの方には、この学位取得は一段と意義深いものと思います。重ねてお祝を申し上げます。

皆さんの学んだ大学院地域社会研究科は、博士課程で文理融合型といえども文系・社会科学系に軸があります。現在全国の国立大学で文系の博士課程を有する大学は数が少なく、その意味で本学の地域社会研究科の存在はきわめて大きな意義があります。皆さんは、そこで学位記を取得したことを誇りに思ってもらいたいと思います。

この4月1日より第4期科学技術基本計画が実施に移されます。この基本計画では、少資源国としてこれから、エネルギーと環境と食を柱に据えることが記載されています。本学は、この点を見越していたわけではありませんが、既に、エネルギーとして北日本新エネルギー研究所、また環境として白神自然環境研究所を立ち上げて活動していました。

しかし、このエネルギー問題については、この度の福島原子力発電所事故により、我国のエネルギー政策の大きな見直しを迫られるようになると思われます。その意味で、我国の第1期から第4期までの科学技術基本計画は、科学という理工系に強くシフトしていました。最近は様々な事故には“想定外の事故”という言葉が使われています。しかし、この度の原子力発電所事故から、エネルギーには哲学の上に立つ十分な政策論議が必要であったと思わされます。

このため、文系の方々のエネルギーの需給、消費を始めとする様々な政策に対する提言が期待されるところであります。それでこそ、第4期科学技術基本計画の強い円滑な推進が行われると私は思います。

本日、学位記を取得された皆さんは、我国のインテリゲンチヤーのひとりとして積極的発言をし、社会のリーダーとして活躍してほしいと思います。我国をとりまく貿易、レアアース、TPP、国内の大震災復興、エネルギー等々に様々な問題があつて、その激動する社会で、皆さんは力一杯活躍されるよう祈ります。皆さんの発展を祈念します。

---

---

## 平成22年度学位記伝達式を挙行

本学では、平成22年度弘前大学学位記授与式を3月11日（金）に発生した東日本大震災の影響により中止し、学位記授与式に代えて、学位記授与と祝意を伝えるために、3月23日（水）、学位記伝達式を各学部・研究科において実施しました。

伝達式では開式に先立ち、犠牲になられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表し、全員で黙祷をささげました。

また、教育学部附属学校園の卒業式は、小学校が3月20日（日）、中学校が3月9日（水）、特別支援学校が3月15日（火）、幼稚園が3月17日（木）に各学校園においてそれぞれ執り行われました。

今年度の卒業者の内訳は、次のとおりです。

### ○弘前大学

#### 学士学位記

人文学部	301名
教育学部	241名
医学部医学科	90名
保健学科	209名
理工学部	282名
農学生命科学部	172名
計	1,295名

### ○弘前大学大学院

#### 修士又は博士前期学位記

人文社会科学研究科	6名
教育学研究科	29名
保健学研究科博士前期	20名
理工学研究科博士前期	77名
農学生命科学研究科	50名

#### 修士又は博士後期学位記

医学系研究科博士	9名
医学研究科	32名
保健学研究科	7名
地域社会研究科	2名

#### 論文博士

地域社会研究科	1名
計	233名

### ○附属学校園

小学校	94名
中学校	197名
特別支援学校	16名
幼稚園	36名
計	343名

## 弘前大学永年勤続者表彰 ～永年の功績を称える～

平成23年3月31日をもって退職される方々及び在職者に対する弘前大学永年勤続者表彰式が、3月17日（木）本学創立50周年記念会館みちのくホールにおいて、理事・部局長等の列席の下に執り行われました。

式典では、遠藤学長から永年にわたり職務に精励されたその功績を称えて、表彰状と記念品が贈られました。

また、受彰者を代表して理工学研究科 稲村 隆夫 教授及び倉坪 茂彦 教授から、感慨を込めた謝辞が述べられました。

今回、表彰を受けられた方々は次のとおりです。

### 退職者表彰（25名）

法人内部監査室	北村 正太郎			
学務部	野呂 公代			
教育学部	北原 晴男	今井 民子	河田 信之	
保健学研究科	石崎 智子			
理工学研究科	倉坪 茂彦	二ツ谷昌夫	小西 榮一	
農学生命科学部	尾崎一二三	葛西 正		
医学部附属病院	三橋 洋子	岡崎 耕衛	木村 均	葛西 二郎
	安部よし子	大和田優子	相馬 博子	間宮 久子
	大澤 豊	角田美沙子	猪股 壽子	對馬あさ子
	山口 秀子	千葉 悦子		

(敬称略)



20年表彰（33名）

総務部	鳥潟 貴	今 壽砂代			
財務部	山形 浩貴	福士 智久			
学務部	佐藤 知己				
施設環境部	會津 利幸				
学術情報部	今 秀徳				
国際交流センター	小山 宣子				
人文学部	黄 孝春	上松 一			
教育学部	山本 逸郎	庄司あゆみ	小笠原義之		
医学研究科	奥村 謙	廣田 和美	玉澤 直樹	小林 恒	
	瀬谷 和彦				
保健学研究科	岩田 学				
理工学研究科	稲村 隆夫	市村 雅一			
医学部附属病院	對馬 敬夫	樋口 毅	高松 達典	工藤 晶子	
	小山 陽子	桜庭 咲子	岩崎 洋子	土田 俊子	
	工藤 和枝	泉谷 清香	廣田るみ子	工藤真由美	

(敬称略)



---

## 弘前大学人文学部とロシア連邦サハリン大学考古学・民族誌研究所 ならびにサハリン州立郷土誌博物館が研究協力協定を締結

本学人文学部とサハリン大学考古学・民族誌研究所(Sakhalin State University, Archaeology and Ethnography Laboratory)ならびに サハリン州立郷土誌博物館(Sakhalin State Regional Museum)は、サハリン(旧樺太)の歴史に関する共同研究を目的として、3月28日に研究協力協定を締結しました。

今回の協定は、人文学部の関根 達人教授が研究代表者を務める科学研究費補助金基盤研究A(「中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究」)に関連し、日本が「北蝦夷地」の名称で呼んでいたサハリン(旧樺太)へ渡ったヒトとモノを通して北方交易の実態解明を目指す日ロ共同研究が始まります。

サハリン大学は1949年に設立されたユジノサハリンスク師範学校を前身とし、ロシア連邦サハリン州において唯一の国立高等教育機関です。考古学・民族誌研究所には考古学博物館が設置され、旧石器時代から歴史時代までの約130,000点以上の資料が収蔵されています。

サハリン州立郷土誌博物館は、日本統治時代の1937年に建てられた旧樺太庁博物館の資料を受け継いでいます。収蔵品は考古・民族・歴史・古生物・地質・植物・動物など多岐にわたり、日本とサハリンとの交流を物語る資料や北方少数民族の資料が充実している点が特長です。

サハリンは近年、海底油田の開発などによりロシア国内では最も経済発展がめざましい地域の一つとして注目されています。今回の提携を機に、考古学以外の人文社会学系分野、さらにはその他の分野との連携が進み、本学の発展に寄与することが期待できます。



右 サハリン州立郷土誌博物館長(右)と  
左 関根弘前大学人文学部教授(左)



旧樺太庁博物館の建物が使われている  
サハリン州立郷土誌博物館

## 弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾 平成22年度アドバンストコース修了証及び認定証授与式を挙

本学では、3月29日（火）「医用システム開発マイスター」養成塾の第1期生7名が、1年半にわたるアドバンストコースを修了し、併せて「医用システム開発マイスター」に認定されることとなったことから、「平成22年度アドバンストコース修了証及び認定証授与式」を挙りました。受講者をはじめ、教職員、自治体・青森県関係者、地域企業関係者など38名が参加しました。

「医用システム開発マイスター」養成塾は、平成20年度文部科学省科学技術振興調整費・地域再生人材創出拠点の形成プログラムに採択されたものであり、青森県内企業技術者を対象に、医療機器・検査装置などの医用システムの開発を先導できる中堅技術者を育成することを目標としています。受講生はこれまで、基礎コース半年、アドバンストコース1年半の研修を受けて、「医用システム開発マイスター」を目指してきました。

式では遠藤学長が、「皆さんがこの津軽地域の発展の強力なリーダーとなってほしい」と式辞を述べ、受講者にアドバンストコース修了証と「医用システム開発マイスター」認定証を手渡しました。櫻庭青森県商工労働部長の挨拶（前沢青森県商工労働部新産業創造課課長代理代読）、東青森県工業会長の祝辞に続き、受講者を代表して鹿糠 歌子さん（青森オリンパス株式会社）が「この2年間に得た経験を医用システム開発に活かし、医療従事者等の助けになれるよう頑張ることで恩返ししたい」と挨拶しました。

「医用システム開発マイスター」に認定された7名は、今後、医療用精密機器などの研究開発に取り組み、地域産業の振興を担う人材として大きな期待が寄せられています。



式辞を述べる遠藤学長

---

## ■ 諸 会 議

### ▼役員会

3月 7日（月）

#### 審議事項

- 1 調査委員会の調査結果について
- 2 職員の懲戒等に関する規程の制定等について
- 3 弘前大学21世紀教育履修規程の一部改正について
- 4 弘前大学21世紀教育科目における「放送大学との単位互換」の単位認定に関する規程の一部改正について

#### 報告事項

- 1 中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（原案）への意見の申立てについて
- 2 平成22年度内部監査の結果について
- 3 平成22年度弘前大学特別研究員研究活動発表会について

3月14日（月）

#### 審議事項

- 1 調査委員会の調査結果について
- 2 学内諸規則等の一部改正等について
  - (1) 弘前大学学位規則の一部改正について
  - (2) 弘前大学人文学部規程の一部改正について
  - (3) 弘前大学教育学部規程の一部改正について
  - (4) 弘前大学医学部規程の一部改正について
  - (5) 弘前大学理工学部規程の一部改正について
  - (6) 弘前大学農学生命科学部規程の一部改正について
  - (7) 弘前大学大学院人文社会科学研究科規程の一部改正について
  - (8) 弘前大学大学院教育学研究科規程の一部改正について
  - (9) 弘前大学大学院医学研究科規程の一部改正について
  - (10) 弘前大学大学院理工学研究科規程の一部改正について
  - (11) 弘前大学大学院農学生命科学研究科規程の一部改正について
  - (12) 弘前大学大学院長期履修学生に関する規程の一部改正について
  - (13) 弘前大学21世紀教育センター規程の一部改正について
  - (14) 弘前大学21世紀教育履修規程の一部改正について
  - (15) 弘前大学21世紀教育科目における「放送大学との単位互換」の単位認定に関する規程の一部改正について
  - (16) 弘前大学学生の懲戒処分に関する規程の一部改正について
- 3 平成22年度組織評価に係る申立てについて
- 4 特定プロジェクト教育研究センターの新設・延長について
- 5 弘前大学大型重点プロジェクト（案）について
- 6 平成23年度弘前大学予算実施計画（案）について

#### 報告事項

- 1 平成23年度入学者選抜個別学力検査（後期日程）について
- 2 平成23年度国立大学法人総合損害保険について
- 3 平成22年度弘前大学研究成果シンポジウムアンケート集計結果について

3月22日（火）

#### 審議事項

- 1 学内諸規則等の一部改正等について
  - (1) 遺伝子実験施設の農学生命科学部への移管等に関する諸規則等の改正等について
  - (2) 国立大学法人弘前大学保育園規程の一部改正について
  - (3) 国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正について

- 
- (4) 国立大学法人弘前大学旅費規程の一部改正について
  - (5) 国立大学法人予算管理規程の一部改正について
  - (6) 国立大学法人余裕金運用規程の一部改正について
  - (7) 財務会計システム稼働等に伴う諸規程等の一部改正について
  - (8) 国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程の一部改正について
  - (9) 国立大学法人弘前大学契約事務取扱細則の一部改正について
  - (10) 国立大学法人弘前大学物品管理規程の一部改正について
  - 2 弘前大学大学院振興基金に関する規程の制定について
  - 3 平成23年度の業務運営に関する計画(年度計画)(案)について
  - 4 平成22年度実施の教員業績評価及び組織評価に係るインセンティブ配分について
  - 5 次期認証評価の受審について
  - 6 弘前大学大型重点プロジェクト(案)について
  - 7 平成23年度弘前大学予算実施計画(案)について

報告事項

- 1 震災による影響について
- 2 学園町職員宿舎(3・4号棟)改修工事の延期について

3月28日(月)

審議事項

- 1 調査委員会の調査結果について
- 2 国立大学法人弘前大学法人文書管理規程の制定等について
- 3 平成23年度入学式の実施について

報告事項

- 1 震災への対応について
- 2 平成23年度地域イノベーション戦略推進地域への提案について
- 3 平成22年度知的財産本部活動報告について

▼学長選考会議

3月10日(木)

審議事項

- 1 学長選考にかかる選考日程について

▼教育研究評議会

3月8日(火)

審議事項

- 1 調査委員会の調査結果について
  - 2 遺伝子実験施設の農学生命科学部への移管等に伴う諸規則等の改正等について
  - 3 弘前大学学位規則の一部改正について
  - 4 職員の懲戒等に関する規程の制定等について
  - 5 弘前大学大学院振興基金について
  - 6 弘前大学人文学部規程の一部改正について
  - 7 弘前大学教育学部規程の一部改正について
  - 8 弘前大学医学部規程の一部改正について
  - 9 弘前大学理工学部規程の一部改正について
  - 10 弘前大学農学生命科学部規程の一部改正について
  - 11 弘前大学大学院人文社会科学部規程の一部改正について
  - 12 弘前大学大学院教育学部規程の一部改正について
  - 13 弘前大学大学院医学部規程の一部改正について
  - 14 弘前大学大学院理工学研究科規程の一部改正について
  - 15 弘前大学大学院農学生命科学研究科規程の一部改正について
  - 16 弘前大学大学院長期履修学生に関する規程の一部改正について
  - 17 弘前大学21世紀教育センター規程の一部改正について
  - 18 弘前大学21世紀教育履修規程の一部改正について
-

- 
- 19 弘前大学21世紀教育科目における「放送大学との単位互換」に関する規程の一部改正について
  - 20 弘前大学学生の懲戒処分に関する規程の一部改正について
  - 21 平成23年度の業務運営に関する計画（年度計画）（案）について
  - 22 人事苦情処理室員の推薦について

報告事項

- 1 教員の人事について
  - (1) 教員の採用・昇任
- 2 平成23年度入学者選抜個別学力検査の実施について
- 3 平成22年度 弘前大学特別研究員研究活動発表会について
- 4 「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」の進捗状況等について
- 5 委員会報告
  - (1) 緊急教育推進会議
  - (2) 21世紀教育センター運営委員会
  - (3) 教育・学生委員会
  - (4) 研究・産学連携委員会
- 6 平成22年度内部監査の結果について
- 7 丸井清泰初代学長記念碑建立検討委員会報告

▼財務・施設委員会

3月 3日（木）

審議事項

- 1 平成23年度予算実施計画原案について

▼教育・学生委員会

3月25日（金）

審議事項

- 1 平成23年度FD活動について
- 2 授業評価アンケートクロス集計作業について
- 3 高大連携公開講座新規協定締結について
- 4 弘前大学大学院振興基金の運用に関する要項（案）について

報告事項

- 1 学生担任制度の実施状況調査について
- 2 教育者総覧入力状況について
- 3 生活指導研修会について
- 4 課外活動団体サークルリーダー研修会について
- 5 学外功労者への感謝状贈呈式の実施について
- 6 平成22年度学生ボランティア活動助成報告について
- 7 弘前大学大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）について
- 8 平成23年度授業日程について
- 9 教育活動推進のための提言について

▼研究・産学連携委員会

3月24日（木）

報告事項

- 1 研究・産学連携委員会委員の推薦等について
  - 2 平成22年度弘前大学研究成果シンポジウムアンケート集計結果について
  - 3 第4回テーマ募集事業「科学者発見プロジェクト」実施要項（案）について
  - 4 国立大学法人弘前大学安全保障輸出管理規程（案）について
  - 5 地域共同研究センター運営委員会(2/16)の報告について
  - 6 機器分析センター運営委員会(3/16)の報告について
  - 7 東北地方太平洋沖地震の影響について
-

# 人 事 異 動

## [任用更新]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年3月16日	助教(医・附属高度先進医学研究セ)	丸山 敦史	助教(医・附属高度先進医学研究セ) [平成28年3月15日まで]

## [昇任]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年3月1日	講師(医)	伊藤 重豪	准教授(医) [平成30年2月28日まで]

## [降任]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年3月10日	課長補佐(総務・人事)	石岡 勝彦	職員グループ係長(総務・人事)

## [配置換]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年3月1日	助教(医)	山田 雅大	助教(病院) [平成28年2月29日まで]

## [離職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年3月13日	助手(医)	津谷 亮佑	任期満了 [平成23年3月13日限り任期満了]
平成23年3月31日	理事	渡辺 政美	辞職
平成23年3月31日	室長補佐(法人内部監査室)	北村 正太郎	定年退職
平成23年3月31日	課長補佐(学務・教務)	野呂 公代	定年退職
平成23年3月31日	課長補佐(病院・総務)	三橋 洋子	定年退職
平成23年3月31日	課長補佐(病院・医事)	岡崎 耕衛	定年退職
平成23年3月31日	農場作業手(農生)	尾崎 一二三	定年退職
平成23年3月31日	農場作業手(農生)	葛西 正	定年退職
平成23年3月31日	教授(人文)	赤城 国臣	定年退職
平成23年3月31日	准教授(教育)	河田 信之	定年退職
平成23年3月31日	教授(理工)	倉坪 茂彦	定年退職
平成23年3月31日	准教授(理工)	小西 榮一	定年退職
平成23年3月31日	准教授(理工)	二ツ矢 昌夫	定年退職
平成23年3月31日	主任診療放射線技師(病院)	葛西 二郎	定年退職
平成23年3月31日	主任診療放射線技師(病院)	木村 均	定年退職
平成23年3月31日	副看護部長(病院・看護)	安部 よし子	定年退職
平成23年3月31日	看護師長(病院・看護)	相馬 博子	定年退職
平成23年3月31日	看護師長(病院・看護)	大和田 優子	定年退職
平成23年3月31日	看護師長(病院・看護)	間宮 久子	定年退職
平成23年3月31日	副看護部長(病院・看護)	大澤 豊	定年退職

平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	千葉悦子	定年退職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	角田美沙子	定年退職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	山口秀子	定年退職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	猪股壽子	定年退職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	對馬あさ子	定年退職
平成23年3月31日	教授（教育）	北原晴男	勸奨退職
平成23年3月31日	教授（教育）	今井民子	勸奨退職
平成23年3月31日	准教授（人文）	山下祐介	退職
平成23年3月31日	准教授（教育）	山本欣司	退職
平成23年3月31日	准教授（教育）	齋藤尚子	退職
平成23年3月31日	副園長（教育・附幼）	根深昌子	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附小）	白尾丈司	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附小）	紀本美貴子	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附小）	小林実	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附小）	村上咲子	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附小）	須藤早苗	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附中）	藤井明	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附中）	森静子	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附中）	藤岡久子	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附中）	大湯由香利	退職
平成23年3月31日	教頭（教育・特支）	梅村博之	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・特支）	宮永佐知子	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・特支）	庄司あゆみ	退職
平成23年3月31日	教諭（教育・附幼）	北山佳子	任期満了 [平成23年3月31日限り任期満了]
平成23年3月31日	教諭（教育・特支）	鳥潟昌也	任期満了 [平成23年3月31日限り任期満了]
平成23年3月31日	教授（医）	保嶋実	任期満了 [平成23年3月31日限り任期満了]
平成23年3月31日	教授（医）	澤田幸正	任期満了 [平成23年3月31日限り任期満了]
平成23年3月31日	講師（医）	吉村徹郎	退職
平成23年3月31日	助教（医）	松岡貴志	退職
平成23年3月31日	助教（医）	平賀典子	退職
平成23年3月31日	助教（医）	櫛引基	退職
平成23年3月31日	助教（医）	沼沢拓也	退職
平成23年3月31日	助教（医）	井上卓	退職
平成23年3月31日	助教（医）	山本善光	退職
平成23年3月31日	助教（医）	成田憲司	退職
平成23年3月31日	助手（医）	今西賢悟	退職
平成23年3月31日	助手（医）	松本敦史	退職

平成23年3月31日	助手（医）	村 上 和 男	辞職
平成23年3月31日	准教授（病院）	尾 崎 浩 士	辞職
平成23年3月31日	講師（病院）	目 時 友 美	辞職
平成23年3月31日	助教（病院）	松 橋 有 紀	辞職
平成23年3月31日	助教（病院）	丸 山 将 輝	辞職
平成23年3月31日	助教（病院）	山 崎 義 人	辞職
平成23年3月31日	助教（病院）	境 雄 大	辞職
平成23年3月31日	助手（病院）	佐々木 全 英	辞職
平成23年3月31日	助手（病院）	六 戸 大 樹	辞職
平成23年3月31日	助手（病院）	菊 池 潤	辞職
平成23年3月31日	薬剤主任（病院）	新 岡 丈 典	辞職
平成23年3月31日	副看護師長（病院・看護）	天 内 由 美	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	山 田 育 代	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	埴 見 亜 寿 香	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	小 嶋 理 佐 子	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	松 橋 加 奈 子	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	油 川 智 恵 子	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	千 田 千 津 子	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	山 下 智 恵 美	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	中 村 恵 美	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	野 呂 妙 子	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	木 村 美 沙 世	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	今 井 博 美	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	木 田 歩	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	小 野 江 梨 花	辞職
平成23年3月31日	看護師（病院・看護）	東 な つ き	辞職
平成23年3月31日	教授（保）	岩 田 学	辞職
平成23年3月31日	准教授（保）	石 崎 智 子	辞職
平成23年3月31日	助教（保）	原 田 智 美	辞職
平成23年3月31日	助教（理工）	村 上 明	辞職
平成23年3月31日	助教（理工）	豊 田 宏	辞職

[復職]

発令年月日	現職（所属）	氏名	異動内容
平成23年3月15日	助教（医）	松 坂 方 士	研究休職からの復職
平成23年3月23日	助教（医）	高 畑 武 功	研究休職からの復職
平成23年3月29日	講師（教育）	出 佳 奈 子	育児休業より

---

## ■ 主要日誌

- 3月3日 財務・施設委員会
- 7日 役員会
- 8日 企画戦略会議  
教育研究評議会
- 10日 学長選考会議
- 14日 役員会  
学外功労賞贈呈式
- 15日 事務連絡会議  
経営協議会
- 17日 弘前大学永年勤続者表彰式
- 22日 役員会
- 23日 学位記伝達式
- 24日 研究・産学連携委員会
- 25日 教育・学生委員会
- 28日 役員会
- 31日 定年退職者等辞令交付式

---

## ■ 学内規則等の制定等

(平成23年3月9日改正)

以下の理由により、下記の規程の一部を改正した。

①会計検査実地検査講評事項における指摘等を踏まえ、平成23年度から看護師の宿舍使用料を有料とする。

②無料宿舍を貸与する者について、字句の整理を行う。

○国立大学法人弘前大学宿舍規程

(平成23年3月16日改正等)

以下の理由により、下記の規則等の一部を改正し、及び制定した。

①遺伝子実験施設を農学生命科学部附属教育研究施設に移管するため、所要の改正を行う。

②財務・施設委員会の構成員に財務企画調整役を加える。

③研究・産学連携委員会の構成員に共同教育研究課長を加える。

(一部改正)

○国立大学法人弘前大学管理運営規則

○学内共同教育研究施設等における教員人事の取扱いについて

○国立大学法人弘前大学研究用微生物安全管理規程

○国立大学法人弘前大学放射線安全管理規程

○国立大学法人弘前大学事務組織規程

○国立大学法人弘前大学公印規程

○国立大学法人弘前大学文書処理規程

○国立大学法人弘前大学法人文書管理規程

○国立大学法人弘前大学文書決裁規程

○国立大学法人弘前大学長の行う承認または命令権の委任に関する規程

○国立大学法人弘前大学会計機関等の事務及び職位等に関する規程

○国立大学法人弘前大学予算管理規程

○国立大学法人弘前大学不動産管理規程

○国立大学法人弘前大学職員安全衛生管理規程

○国立大学法人弘前大学エネルギー使用の合理化に関する規程

○弘前大学大学院農学生命科学研究科規程

(制定)

○弘前大学農学生命科学部附属遺伝子実験施設規程

○弘前大学農学生命科学部附属遺伝子実験施設放射線障害予防規程

○弘前大学遺伝子実験施設規程を廃止する規程

○弘前大学遺伝子実験施設放射線障害予防規程を廃止する規程

---

(平成23年3月16日改正)

学士の学位記について、字句の見直しを行うため、下記の規則の一部を改正した。

○弘前大学学位規則

(平成23年3月16日改正)

英語コミュニケーション実習「英語ⅢA」及び「英語ⅢB」において、履修可能単位数をそれぞれ1単位から3単位に変更するため、下記の規程の一部を改正した。

○弘前大学21世紀教育履修規程

(平成23年3月16日改正)

放送大学のカリキュラムの一部改正に伴い、放送大学で修得した単位を、本学で修得したものとみなし認定する授業科目を変更するため、下記の規程の一部を改正した。

○弘前大学21世紀教育科目における「放送大学との単位互換」の単位認定に関する規程

(平成23年3月16日改正)

以下の理由により、下記の規程の一部を改正した。

①長期履修学生を願い出できる者に関し、職業を有している者について見直しを行い、自営業、臨時雇用、非常勤等を含める。

②教育学研究科で「教育職員免許取得プログラム」を導入することから、教育職員免許取得プログラムによる入学者も長期履修を可能とする。

○弘前大学大学院長期履修学生に関する規程

(平成23年3月16日改正)

試験等における不正行為に関し、「試験等」を成績評価のための試験、小論及び成果物であることを明確にするため、下記の規程の一部を改正した。

○弘前大学学生の懲戒処分に関する規程

(平成23年3月16日改正)

学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）の改正（平成23年4月1日施行）の趣旨を踏まえ、学部及び研究科並びに課程及び専攻ごとの教育研究上の目的を明確にするため、下記の規程の一部を改正した。

○弘前大学人文学部規程

○弘前大学教育学部規程

○弘前大学医学部規程

○弘前大学理工学部規程

○弘前大学農学生命科学部規程

○弘前大学大学院人文社会科学部規程

○弘前大学大学院教育学研究科規程

○弘前大学大学院理工学研究科規程

○弘前大学大学院農学生命科学研究科規程

---

(平成23年3月16日改正)

学校教育教員養成課程において、実践力の強化とともに専門の力をより一層重視した教員を養成するために専攻を改組するとともにカリキュラムを改定するため、下記の規程の一部を改正した。

○弘前大学教育学部規程

(平成23年3月16日改正)

病理診断学講座及び寄附講座の設置に伴い、教育研究分野を増設し、教育内容を拡充するため、下記の規程の一部を改正した。

○弘前大学大学院医学研究科規程

(平成23年3月16日改正)

博士後期課程における授業科目の追加等カリキュラムの充実を図るため、下記の規程の一部を改正した。

○弘前大学大学院理工学研究科規程

(平成23年3月16日改正)

21世紀教育センターにおける副センター長の業務を、科目主任の任期にとらわれることなく円滑に進めるため、下記の規程の一部を改正した。

○弘前大学21世紀教育センター規程

(平成23年3月28日改正等)

以下の理由により、下記の規程等の一部を改正し、及び制定した。

- ①給与水準を社会一般の情勢に適合させるため、国に準じ、期末手当、勤勉手当及び期末特別手当にかかる支給月数を引き下げる。
- ②若年・中堅層（43歳に満たない職員）を中心に、これまで抑制されてきた昇給を回復させるため、1号俸上位の号俸に調整する。
- ③月60時間の超過勤務時間の積算の基礎に法定休日における勤務の時間を含める。

(一部改正)

○国立大学法人弘前大学職員給与規程

○国立大学法人弘前大学職員の初任給、昇格及び昇給等の基準に関する細則

○国立大学法人弘前大学期末手当、勤勉手当及び期末特別手当支給細則

(制定)

○平成23年4月1日における号俸の調整について

---

(平成23年3月28日改正等)

以下の理由により、下記の規程の一部を改正し、及び制定した。

- ①真に保育園による保育を必要とする者が利用できるようにするため、入園時に審査を行う。
- ②保育園利用者のニーズに合わせて対応できるよう、保育形態による定員枠を撤廃する。

(一部改正)

- 国立大学法人弘前大学保育園規程
- 弘前大学保育園利用細則  
(制定)
- 弘前大学保育園入園者選考基準

(平成23年3月28日改正)

文部科学省からの指導及び他大学の状況を踏まえ、支度料を廃止するため、下記の規程の一部を改正した。

- 国立大学法人弘前大学旅費規程

(平成23年3月28日改正)

予算状況の報告書に係る提出時期の見直しを図るため、下記の規程の一部を改正した。

- 国立大学法人弘前大学予算管理規程

(平成23年3月28日改正)

資金運用委員会の構成員に財務企画調整役を加えるため、下記の規程の一部を改正した。

- 国立大学法人弘前大学余裕金運用規程

(平成23年3月28日改正)

以下の理由により、下記の規程等の一部を改正した。

- ①新財務会計システム稼働に伴い、出納及び債権管理業務等に関連する各種帳票等の様式変更を行う。
- ②字句の修正等所要の整備を行う。

- 国立大学法人弘前大学出納事務取扱規程
- 国立大学法人弘前大学寄附金受入事務取扱規程
- 国立大学法人弘前大学債権管理規程
- 国立大学法人弘前大学債権管理規細則

(平成23年3月28日改正)

見積書の徴取を見直し、円滑な事務を行うため、下記の規程の一部を改正した。

- 国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程

(平成23年3月28日改正)

以下の理由により、下記の規程の一部を改正した。

- ①契約依頼の手続等について、現状との整合を図る。
- ②寄附金受入れに係る条項を、物品管理規程に移動する。

- 国立大学法人弘前大学契約事務取扱細則
-

---

(平成23年3月28日改正)

以下の理由により、下記の規程の一部を改正した。

- ①国立大学法人会計基準に応じた物品管理体制にするため、字句の整備を行う。
- ②物品に係る契約行為等に関する事項を整備する。
- ③引継事務を簡素化し、業務の効率化を図る。
- ④物品の取得等に係る事務手続に関し、様式の整備を行い、業務の効率化を図る。

○国立大学法人弘前大学物品管理規程

(平成23年3月28日制定)

本学大学院学生等に対する授業料免除又は授業料相当額の給付を行うことにより就学支援を図り、もって本学大学院等の振興に資するため、下記の規程を制定した。

○弘前大学大学院振興基金に関する規程

(平成23年3月31日制定)

公文書等の管理に関する法律(平成21年法律第66号)の施行に対応するため、下記の規程を制定した。

○国立大学法人弘前大学法人文書管理規程

○国立大学法人弘前大学法人文書管理規程を廃止する規程

弘前大学学報第84号

弘前大学総務部総務課  
036-8560 弘前市文京町1  
電話 (0172) 36-2111